

tnsnames.ora ファイル (クライアント側)の定義
クライアント側 Oracle 接続用ネットワークファイル
Oracle ホーム¥network¥admin¥tnsnames.ora ファイル
Oracle Net Configuration Assistant ツールでの作成

tnsnames.ora ファイルの構文

```
# Name tnsnames.ora
# Folder Oracle ホーム¥network¥admin

<接続識別子名> =
  ( DESCRIPTION =
    ( ADDRESS_LIST
      ( ADDRESS = ( PROTOCOL = <プロトコル> )
        ( HOST = <サーバー名> )
        ( PORT = <ポート番号> )
      )
    )
  ( CONNECT_DATA =
    ( SERVER = <接続方法> )
    ( SERVICE_NAME = <グローバル・データベース名> )
  )
)
```

設定値の説明

<接続識別子名> : Sql*Plus の接続時に@以降で指定するための識別子

<プロトコル> : TCP or IPC

※ プロトコルに IPC を指定する場合は、ADDRESS 文は以下のように記述
(ADDRESS = (PROTOCOL = IPC) (KEY = EXTPROC1521))

<接続方法> : DEDICATED (専用サーバー接続)
or SHARED (共有サーバー接続)

※ 『SERVER = <接続方法>』文を省略した場合には、データベース側で
指定されているデフォルトの接続方法が採用される

tnsnames.ora (クライアント側、サーバー側発信用設定)

Oracle ホーム¥network¥admin¥フォルダ

設定例)

```
# Name tsnames.ora
# Folder Oracle ホーム¥network¥admin
# 接続識別子名
# ↓
ORA2 =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = サーバー名)(PORT = 1521))
    )
    (CONNECT_DATA =
      (SERVICE_NAME = ora2.local.domain) # ← グローバル・データベース名
    )
  )

ORA1 =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = サーバー名)(PORT = 1521))
    )
    (CONNECT_DATA =
      (SERVICE_NAME = ora1.local.domain)
    )
  )

# ORA1、ORA2 : クライアント側ツール (SQL*Plus、RMAN) で呼出す時の名前
# ora1.local.domain、ora2.local.domain : サーバー側のグローバル・データベース名
# オラクル SID 名
# なお、複数オラクル SID 名に対応させる設定ためでも、PORT 番号は、同一で可
```

sqlplus username/password@net_service_name

↑

ここで指定するのが、接続識別子

別法 sqlplus username/password@サーバー名:1521/グローバル・データベース名
この場合は、クライアント側の sqlnet.ora の編集が必要
NAMES.DIRECTORY_PATH=(EZCONNECT, TNSMAMES)

Oracle Net Configuration Assistant ツールでの作成

)

手順 1.

Oracle Net Configuration Assistant の起動

[スタート] → [Oracle_OraClient11g_home1] → [コンフィグレーションおよび移行
ツール] → [Net Configuration Assistant]

手順 2.

構成を選択します

- | | | |
|--|---|------------------|
| <input type="radio"/> リスナー構成 | → | listener.ora の作成 |
| <input type="radio"/> ネーミング・メソッド構成 | | |
| <input checked="" type="radio"/> ローカル・ネット・サービス構成 | → | tnsnames.ora の作成 |
| <input type="radio"/> ディレクトリ使用構成 | | |

手順 3.

サービス名を指定

Oracle インストール (DB 作成) 時のグローバル・データベース名を指定

~~今から設定する内容についての、tnsnames.ora での項目で使用する名前~~

※ SQL*Plus の接続で使用される@以下の接続識別子ではない

但し、同一の名前にしておくことは可能

手順 4.

ホスト名と接続用ポート番号を指定

ホスト名 : DNS で名前解決できるサーバー名 もしくは、IP アドレス

ポート番号 : 接続で使用するポート番号 (デフォルト 1521)

※ 複数 Oracle インスタンスのサーバーでも、同一ポート番号の使用可能

Oracle インスタンスごとの別のポート番号を指定することも可能

手順 5.

ネット・サービス名の決定

ここで決めた名前が、SQL*Plus の接続で使用される@以下の接続識別子になります

※ 手順 3. で指定した名前がデフォルトとして自動反映されています

変更は、不必要です

発生するエラー内容と対応方法

Ora-12638 証明の取得に失敗しました

原因：sqlnet.ora ファイルの設定により、OS で使用しているユーザーで接続を行おうとしたため

対応：sqlnet.ora ファイルの内容を下記のように設定変更する

SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NTS)

↓

SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (**NONE**)

ORA-12170: TNS: 接続タイム・アウトが発生しました

原因：サーバーがスリープ状態になっているためにタイム・アウトが発生した

対応：画面をクリックしてスリープ状態解除することにより解消